



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京阪北7 西5 オフィス計画	階数	地上11F
建設地	北海道札幌市北区北7 条西5 丁目5 番1	構造	S造
建物用途	事務所,飲食店,工場,	平均居住人員	500 人
竣工年	2025年9月 予定	年間使用時間	3,180 時間/年(想定値)
敷地面積	1,120 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	721 m ²	評価の実施日	2024年1月16日
延床面積	7,023 m ²	作成者	株式会社 鴻池組
		確認日	2024年1月26日
		確認者	株式会社 鴻池組



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.71**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項

総合 室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた	A 省エネルギー LED照明設備などの高効率設備を使用し、省エネルギー化に努めた。	D 雪処理 敷地内にヒーティングを設置し、雪処理の簡易化に努めた
B 省資源等 耐用年数が高い材料及び配管を使用し、省資源の向上に努めた	C 緑化 敷地環境を考慮し可能な限り緑化に努めた	

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

CASBEE_Sapporo2021v1.0 (仮称)京坂北7西5オフィス計画		欄に数値またはコメントを記入	■使用評価マニュアル CASBEE_Sapporo2021v1.0 ■評価ソフト: CASBEE札幌2021 (ver.1.0)				
スコアシート 実施設計段階		重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体
配慮項目			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							3.0
Q1 室内環境				0.40		-	3.3
1 音環境			3.4	0.15		-	3.4
1.1 室内騒音レベル		-	3.0	0.40		-	
1.2 遮音			4.2	0.40		-	
1 開口部遮音性能		T-2以上	5.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		-	3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-		-	
1.3 吸音		-	3.0	0.20		-	
2 温熱環境			3.0	0.35		-	3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50		-	
1 室温		-	3.0	0.61		-	
2 外皮性能		省エネ	3.0	0.39		-	
3 ゾーン別制御性		-	-	-		-	
2.2 湿度制御		-	3.0	0.20		-	
2.3 空調方式		-	3.0	0.30		-	
3 光・視環境			3.5	0.25		-	3.5
3.1 昼光利用			4.1	0.32		-	
1 昼光率		2.5%≧[昼光率]	5.0	0.58		-	
2 方位別開口		-		-		-	
3 昼光利用設備		省エネ	3.0	0.42		-	
3.2 グレア対策			3.0	0.29		-	
1 昼光制御		省エネ	3.0	1.00		-	
3.3 照度		全般照明方式の場合で、照度が500lx以上1000lx未満。 タスク・アンビエント照明方式もしくはこれに準ずる照明方式の場合で、タスク照度が500lx以上1000lx未満、かつアンビエント照度がタスク照度の1/3以上2/3未満。	4.0	0.15		-	
3.4 照明制御		-	3.0	0.24		-	
4 空気質環境			3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積)に採用している。	4.0	1.00		-	
4.2 換気			3.3	0.30		-	
1 換気量		-	3.0	0.34		-	
2 自然換気性能		窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が25cm ² /m ² 以上。あるいは、窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。あるいは、必要外気量の2倍以上の外気冷房の採用により室内空気質の向上が期待できる。	4.0	0.32		-	
3 取り入れ外気への配慮		-	3.0	0.34		-	

4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1	CO ₂ の監視		-	3.0	0.50	-	-	
2	喫煙の制御		-	3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-	
1	広さ・収納性		-	3.0	0.32	-	-	
2	高度情報通信設備対応		-	3.0	0.32	-	-	
3	バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準(望ましいレベル)を満たしている。	4.0	0.35	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観		事務室の天井高2.7m以上となっており、かつ、すべての執務者が十分な屋外の情報を得られるように窓が設置されている。	4.0	0.34	-	-	
2	リフレッシュスペース		-	3.0	0.32	-	-	
3	内装計画		-	1.0	0.34	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		-	3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		-	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		-	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		-	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		-	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-	

3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	緑化	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.6
LRI エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1	建物外壁の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.84 品確法= -	4.6	0.20	-	-	4.6
2	自然エネルギー利用	省エネ	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.71 -	3.9	0.50	-	-	3.9
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネ	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	省エネ	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	省エネ	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
	2.1 材料使用量の削減	省資源	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	構造耐力上主要な部分にリサイクル材を用いている。	5.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	リサイクル材を3品目以上用いている。	5.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	解体時の分別が容易なLGS工法及び再利用可能であるOAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	

3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	省資源	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	省資源	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率:73%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止	省資源	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		-		-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策チェックリストの一部を満たし、広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)京阪北7 西5 オフィス計画	BEE	1.5	BEEランク	A
建物用途	事務所,飲食店,工場,				
延床面積	7,023.5 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 6.6)		合計		17.2点 / 23.5点	
Q1 温熱環境	スコア 0.8 / 1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.7 / 4.0		
Q1 光・視環境	スコア 1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 / 2.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.8 / 10.0		
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 / 4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		16.7点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 7.7 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.5 / 1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 / 5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.1 / 4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		7.3点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 / 6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		1.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数